

#### (4)日本の対中国戦争賠償と経済援助の実態 (196 ページ目)

第二次世界大戦の終結と日本の敗戦後、「徳」の心で仇に対処する、と主張する蒋介石の中国政府は日本に対する戦争賠償を放棄したが、1972年の日中国交正常化を実現した時、日本国内の圧力を突き破って中国との国交回復に努力する田中角栄首相の立場を考慮し、中華人民共和国も日本政府に戦争賠償権を放棄した。

(一部省略)。

これに対し、その事情をよく承知している日本政治家は言うまでもなく、普通の日本国民にとっても肩の重荷を下ろしたにほかならない。それを背景に、日増しに高まる日中友好の流れのなかで、1979年に日本政府によって対中国经济援助 (ODA) プロジェクトがスタートした。

2009年現在まで、前後合わせて33,165億日本円の低金利融資 (ほとんどの融資金利は1%以下) その内無償援助資金は1,544億日本円、技術協力資金1,704円に達している。

その中に、空港・道路・発電所などのインフラ整備、及び病院・環境保全などのプロジェクトが含まれている。北京空港・北京中日友好病院・中日友好環境保護センターがその代表作として広く知られており、改革開放の道に乗り出したばかりで、経済基盤がまだ脆弱の中国にとって、日本側のこうした援助の果たされた役割の大きさが論を待たないところだ。

	
北京中日友好病院	中日友好環境保護センター